

第三十五回

斎宮 まつり

～永遠の祈り～



三重県明和町



平成29年

6月 3日 (雨天の場合中止)
前夜祭 17時~21時
斎王市 15時~21時

6月 4日 (雨天の場合中止)
出発式・禊の儀・斎王群行・社頭の儀 12時15分~15時
さいくう平安の杜~上園芝生広場~斎宮歴史博物館

斎王市・アトラクション 10時~15時
斎宮歴史博物館会場

特別ゲスト/作曲家・音楽プロデューサー 長岡成貢

配役

さいおう
斎王



中北 純平
(志摩市)



井尻 季幸
(大阪府泉佐野市)



山本 泰広
(松阪市)



桐山 阜也
(津市)



柏木 綾子
(大阪府大阪市)

近衛使



竹林 優奈
(伊勢市)



中前 安薰
(大阪府大阪市)



中島 正尋
(滋賀県甲賀市)



笠田 千尋
(東京都三鷹市)

検非違使



中村 幸美
(明和町)



江原 章人
(伊勢市)

齋宮十二司官人



橋本 茉奈
(愛知県名古屋市)



中井 美波
(四日市市)



荒木 遥菜
(津市)



奥山 玲加
(伊勢市)



中保 友里
(津市)

女別当

采女



伊藤 実沙
(伊勢市)



山本 由佳
(志摩市)



坂 礼子
(鈴鹿市)

命婦



協力参加

皇學館大学
雅樂部の皆さん



斎王まつり総合司会
大西 敬子

第二十二回斎王まつり「第二十代斎王役」。斎王まつりの魅力を多くの人に伝えたい!という思いから、約十年間、司会を担当。三重いちご「かおりの」・三重ブランド野菜のプロモーションキャラクターを務めるなど、東海地方を中心にタレント・モデル活動を行っています。



浜崎 小夜子
(大阪府大阪市)



坂谷 有絵
(伊勢市)



佐藤 彩希
(埼玉県ふじみ野市)



山本 由佳
(志摩市)



坂 礼子
(鈴鹿市)

舞人



櫻井 綾乃
(津市)

童・童女 出演者 (順不同)



第三十五回 斎王まつりを迎えて

斎王まつり会場（国史跡斎宮跡）一帯は、昨年の「さいくう平安の杜」につづいて「いつきのみや歴史体験館」が完成し、明和町観光案内所などが整備され観光地「斎宮」として、皆さまをお迎えする準備が整いました。

昨年の「斎王群行」は、さいくう平安の杜を出発して、旧参宮街道を通り斎宮歴史博物館会場へと進み、「社頭の儀」を執り行いました。

今年の「斎王群行」は「禊の儀」が復活します。

さいくう平安の杜での「出発式」は同じですが、上園芝生広場（斎宮駅北側）にて「禊の儀」を行い、新しく整備された古代伊勢道を通り斎宮歴史博物館会場へと向かいます。

また、今回の特別ゲストの「長岡成貢」氏より、待望の斎王まつりのテーマ曲「永遠の祈り」を創っていただきました。

それは斎王さまにふさわしい幻想的で高貴なイメージの素晴らしい曲です。

随所にこの曲が流れています。

皆さまもこの「永遠の祈り」で、遙か悠久のみやこを偲んでいただきて、より見どころが豊富な「斎王まつり」を楽しんで頂きたいと思います。

斎王まつり実行委員会

	6/4(日)	6/3(土)
(雨天中止)	(雨天中止)	(雨天中止)
14:45~15:00 斎王群行 さいくう平安の杜から 斎宮歴史博物館会場まで	12:15~15:00 出発式・禊の儀 さいくう平安の杜・上園芝生広場	10:00~15:00 斎王市 アトラクション 作曲家音楽プロデューサー 長岡成貢 斎王他出演者紹介 斎宮歴史博物館会場 開会式
15:00~21:00 前夜祭 大淀港↑	17:00~21:00 斎王市 アトラクション 作曲家音楽プロデューサー 長岡成貢 斎王他出演者紹介 斎宮歴史博物館会場 開会式	15:00~21:00 斎王市 アトラクション 作曲家音楽プロデューサー 長岡成貢 斎王他出演者紹介 斎宮歴史博物館会場 開会式

もくじ

斎王まつり配役	2
斎王まつり童・童女出演者	4
「さいくう平安の杜」からはじまる斎王まつり	6
王朝の暮らし	8
斎宮跡の発掘調査	10
斎王一覧	12
いつきのみや歴史体験館	13
特別ゲスト紹介 長岡成貢	14
実行委員会 新メンバー挨拶	15
図書の紹介 / 実行委員会組織体制	16
斎王まつり実行委員会活動	17
群行衣裳	18
フォトコンテスト	20
第34回斎王まつりの思い出	22



「さいくう平安の杜」からはじまる斎王まつり

斎宮歴史博物館副参事兼学芸普及課長

榎村 寛之



平成二十七（二〇一五）年十月、「さいくう平安の杜」がオープンしました。斎宮の遺跡、斎宮跡は東西二キロメートル、南北七〇〇メートルにわたる範囲が国によって史跡に指定された広大な遺跡ですが、そのほとんどが台地上の平坦な地形であるため、ランドマークや記念写真を撮るのに適した所はほとんどありませんでした。一目で斎宮らしい雰囲気のわかる所として、この公園はまさに「斎宮跡のシンボルゾーン」といえる所です。

そのため、昨年平成二十八（二〇一六）年より、斎王まつりも、ここを出発会場とすることになりました。

このゾーンは東西一〇〇メートル程度、南北一二〇メートル程度の、正方形に近い四角形をしています。これは今から一二三〇年ぐらい前に造られた、ほとんど正方形の区画の大部分を、その場所に再現したものなのです。斎宮跡では、奈良から京都に都が移った8世紀末期に、一二〇メートル四方の区画が東西最

大七列、南北四列並ぶ碁盤目のような地割、方格地割が造されました。この地割の中には、斎王の宮殿と、斎王に仕えた斎宮寮という役所などが所在しており、平城京や長岡京などの都市設計を踏まえた、時代の最先端を行く計画的なオフィス街になっていたのです。斎宮歴史博物館では、一九九〇年代に斎王が住んでいた「内院」と呼ばれる地域と、整然として公開しました。

ところが、斎王が住む内院は、その一角が近鉄の線路と重なつていて、現在竹神社という神社になつているなどの事情で、現地で区画を再現することはできませんでした。そこで博物館、明和町、地域の人々も交えた検討の結果、斎宮内院の北側で、区画全体では、東から4列目、北から2列目の通称柳原区画を重点的に調査して公開しました。

つまり國守の代理や次官を兼ねるという事例が生じます。斎王のマネージャーのような立場だった斎宮頭が、行政的な仕事を伊勢国と分担するようになるのです。当然行政事務も大幅に増えたと考えられ、実際延暦二十二年（八〇三）には、文書の作成などの書類事務を行う史生が四人配置され、文書行政が大幅に拡大されたものと考えられます。こうした公文書をやりとりするにも色々な儀式が必要でした。

また、この広い中庭を使って斎宮の祭の一部も行われていた可能性がありました。斎宮では毎年二月に、斎宮のある多気郡、伊勢神宮のある度会郡の神社の祝（はふり＝神官）を集めて、祈年祭（きねんさい）という祭を行います。この二つの郡は大変神社が多く、伊勢国の他の郡では二十座もないのに、二郡で九十八座もありました。その祝たちが斎宮に会して、農業の始めにあたり、国家から幣帛（送り物）を賜るという祭が行われてではなく、斎宮に調庸（地方で收取される税の一種）を送つてくる各地の国府や、伊勢神宮の行政組織である太神宮司と交渉を行っていました。また、延暦十年（七九二）には、賀茂人麻呂という斎宮頭が伊勢守を兼ねるという人事があり、以後しばしば斎宮頭が伊勢権守や介、

一方、三面庇の大型建物は、西側の脇殿で、宴会や儀礼を行う会場などにも使えたようです。斎宮寮の役人たちや、伊勢神宮の行政組織である太神宮司と交渉を行つていました。また、延暦十年（七九二）には、賀茂人麻呂とい

う斎宮頭が伊勢守を兼ねるという人事があり、以後しばしば斎宮頭が伊勢権守や介、

査することになりました。この区画では、

以前に大型の建物が一部発掘されており、内院について重要な、斎宮寮の中心の中には、斎王の宮殿と、斎王に仕えた

斎宮寮という役所などが所在しており、道路で、幅約九メートルあつたことがわかつております。この幅九メートルの道も、奈良時代以来斎王や都と伊勢

道路ではありますですが、平安時代中期には造られた道路であることがわかつています。

本年度から斎王まつりは、平安時代の斎王が通つていたであろう道をそのまま通り、奈良時代の斎宮があつた博物館の南側に向かって進んでいくのです。

群行に参加する人々はここに集まり、出発の儀式を行い、南側の区画道路に出ます。この道路は都と伊勢神宮を結ぶ官道を兼ねていたと考えられ、南側には斎宮との共同研究の成果をもとに、文化庁とも協議を重ね、三棟の建物が復元され、同時にこの区画にあつた十数棟に及ぶ小型の建物も、全て地表に表示をしたのです。なんてことをくだくだ述べても、この区画の具体的なイメージはよくわからなないと思います。実は「さいくう平安の杜」では、VR（バーチャルリアリティ）を見ていただけたタブレットを用意して、区画の状況、方格地割の全体復元、斎宮内院の状況、そしてこの中庭に九十八人の祝が集まつて儀式を行つている様子などをごらん頂くサービスも始まっています。そんな平安時代の斎宮を実物大で体感できる施設なので、このゾーンは斎王まつりでも重要な役割を果たします。斎王

王朝の暮らし

斎宮での日常生活、それは神に仕えるという特殊な任務を担う機関でありながらも、神事に関わること以外は、都を写したかのようないやかなものであったことが知られています。食事や調度品の数々、一〇世紀ころの斎宮の様子を知る手がかりとなる『延喜式』は、おなじ時代の貴族の生活となんら遜色のない斎王の生活を伝えています。

ところで、斎王はどんな装束を身につけていたのでしょうか。唯一斎王の装束について書き残されたものに『左経記』があります。

これは源經房といふ貴族の日記で、それによると斎王良子内親王の成人の衣装として、父天皇より贈られたのが、白い裳唐衣と緋色の袴だつたそうです。白は色のなかでもっとも高貴な色ですから、神に仕える者装束として、何か斎宮らしさを物語っているようでもあります。

角盥(模造)



ゆする杯(模造)

●ゆする杯

研ぎだし唐絵をほどこした五本の曲線の脚をもつ台の上に、銀の蓋付きの器を置き、器のなかには「ゆする」が入っています。ゆするとはコメのとき汁のことです。髪を伸ばす効果があると信じられており、髪を梳るときにもちいられました。本来は台に飾りひもを垂らした錦の敷物を置きますが、ここでは略しています。



角盥(模造)

●唐櫛筈

一段重ねにつくりつけられた大小ふたつの箱を鷲脚の入角形台に乗せる調度品で、通常は男性貴族が使用するものといわれています。上段の箱には櫛を納め、金銅製の把手装飾を付けましたが、鎌倉時代以前の絵巻にみられるもののほとんどが無地で表現されているので、それになしがい復元しました。



唐櫛筈(模造)

斎宮跡の発掘調査

平成28年度の
斎宮跡の発掘調査



調査中の鍛冶工房(南から)



溝と溝の間に激しい掘り込み



188次調査・189次調査区位置図

【第一八九次調査】 史跡西部に位置する飛鳥～奈良時代にかけての「初期斎宮」の解明を目的として、約一二〇平方メートルを調査しました。

過去の調査と合わせると、今回発見された板塀は、南北約五六メートル 東西約四八メートルの方形区画となると考えられます。飛鳥時代の堅穴建物が発見されるなど、大変重要な成果がありました。

辺には鍛冶関係の工房が点在していました可能性があります。今後の調査の進展が待たれます。

これまで斎宮跡では、史跡西部には飛鳥時代から奈良時代の「初期斎宮」があり、史跡東部には奈良時代末から整備が始まる「方格地割」のなかに奈良時代末から平安時代後期の斎王の宮殿「内院」や斎宮寮など斎宮中枢施設がありました。しかし、平安時代末から鎌倉時代頃の斎宮は不明な部分が多く、今回の調査成果はそれを埋めるひとつとなるでしょう。

発掘面積は狭かったのですが、今回の調査では、調査区の西側で奈良時代の斎王の宮殿を聞くと考えられる板塀や飛鳥時代の堅穴建物が発見されるなど、大変重要な成果がありました。



奈良時代の板塀の痕跡(北西から)



第189次調査全景(西から)

り新しいことがわかります。板塀に囲まれた方形区画は奈良時代の斎王の宮殿と考えられ、今後、区画内の構造の解明が期待されます。

これまで斎宮跡では、史跡西部には飛鳥時代から奈良時代の「初期斎宮」があり、史跡東部には奈良時代末から整備が始まる「方格地割」のなかに奈良時代末から平安時代後期の斎王の宮殿「内院」や斎宮寮など斎宮中枢施設がありました。しかし、平安時代末から鎌倉時代頃の斎宮は不明な部分が多く、今回の調査成果はそれを埋めるひとつとなるでしょう。

役所に使われたような大型の掘立柱建物こそありませんが、古代伊勢道に直交する六本の南北溝と、掘立柱建物が十数棟確認されており、古代伊勢道沿いに南北溝で区画された複数の屋敷地群が広がっていたことが判明しました。

また、調査区西側の溝と溝に挟まれた幅三・五～四メートル、長さ一三メー

トル以上の範囲には、円形や不定形の掘立柱建物、鉄器加工に関わる工房跡とみられる堅穴状遺構があります。また、出土遺物には、土師器や須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、白磁、製塙土器、瓦器など平安時代後期から末を中心とした多数の土器のほか、土錘や鉄器の小片なども出土しました。

最後に、工房かとみられる堅穴状遺構について紹介します。堅穴状遺構は、東西四メートル×南北三・五メートルの方形掘り込みの中に、鉄屑が混じる焼土が集中する箇所があつたことから、小規模な鍛冶が行われたのではと推定しています。今回の調査区の約一〇〇メートル西側にある斎宮跡第五〇次調査区でも鎌倉時代の焼土が伴う同様の遺構があり、周

平成二八年度の調査

平成二八年度の斎宮跡の発掘調査は、斎宮跡歴史ロマン広場西側で実施した斎宮跡第一八八次調査と、史跡西南部に位置する竹川地区の近鉄線北側で実施した斎宮跡第一八九次調査を行いました。

【第一八八次調査】 古代伊勢道沿いの実態解明を目的に、約七〇〇平方メートルを調査しました。



現場公開の様子

(斎宮歴史博物館 調査研究課)

調査にご期待ください。
これからも斎宮跡の発掘調査の行う発掘

【発掘体感ミュージアム】 第一八八次発掘調査では、初の試みとして、遺跡の発掘調査をリアルタイムで体感できる「さいくう発掘体感ミュージアム」を開設しました。六月から十一月の発掘期間中、解説担当者を常時現地に配置して、毎日出でてくる遺構や遺物をその場で公開し、発掘現場の感動を体感して頂きました。また、お皿に墨で文字や絵を描く墨書き土器体験も常時実施するとともに、毎月一回の休日現場公開や、事前申込制の体験発掘も実施しました。

来場者からは、ナマの現場を解説付きで見ることが出来て感動したという感想が多く寄せられ、期間中の来場者は最終的に四八〇〇人に達しました。



第188次調査区(東から)。写真右の道路は古代伊勢道

「永遠の祈り」長岡成貢

長岡成貢（ながおかせいこう）

一九六一年 三重県明和町出身。作曲家／音楽プロデューサー

まだ幼い皇女が斎王に選ばれ、野々宮での精進潔斎の日々を送られた後、父天皇との別れの儀式を終え、いよいよ伊勢の地に向かわれる。数百名からなる壯麗な群行の中、葱華輦そらかわねんに揺られながら、幼き斎王は一体どのようないで伊勢斎宮の地に向かわれたのでしょうか。

まだあどけなさが残るそんな幼き（小さな）斎王が、ここ斎宮にお住まいになり、やがて神の御杖代としての重要な役割を果たされる（大きな）存在になられる無限のダイナミズム、「斎王」という崇高なる「祈りのひめみこ」のイメージは、美しさと悲しさを併せ持つ世界でたった一つの「永遠のファンタジー」である。そして、その神に仕えるお姫さまの物語は、日本の神話と歴史の中で異彩を放つて永遠に輝き続ける。

昨年、斎王まつりのテーマ曲として制作し、献上させていたいた「永遠の祈り」の制作の背景には、そんな斎王の世界、祈りのメッセージを音楽で表現し世

界中に発信したい、そしてこの斎宮の地で平和の祈りを捧げる日々を送られた歴代の斎王達に感謝の気持ちを捧げたいという思いがありました。そして昨年11月には、斎王まつり第32代八木美海斎王、斎王まつり実行委員会の皆さまと共に、伊勢神宮外宮勾玉池の奉納舞台にて謹んで「永遠の祈り」を演奏し、ご奉納させて頂きました。

そして本年度、この「斎王まつりのテーマ／永遠の祈り」を始め、これまで長年にわたり斎王のイメージで作ってきた楽曲をまとめCD化して日本中、そして世界に発信していく予定です。決して歴史的な史実からだけからでは見えてこない「斎王」のイメージ、「斎王」の祈りのメッセージを、音楽や歌を通して多くの人々の心に届ける事が出来れば、この地で祈りの日々を送られた歴代の斎王さまも、この地に眠る斎王さまも、さっとお喜びになられるのではないか。そんな願いを込めて。

（CD発売日など詳しい情報は、長岡成貢ホームページ www.hinemikoco.jp で）



SMAP、EXILE、中島美嘉、嵐、KINKI-KIDS、CHEMISTRY、MISIAなど多くのアーティストへの楽曲提供、編曲、プロデュースを始め、TBS日曜劇場「J-1N-仁」、映画「桜田門外ノ変」、モントリオール世界映画祭2016で最優秀芸術賞を受賞したEXILE HIRO初プロデュース作品「たたら侍」など数多くの映画、ドラマ、アニメ作品を手掛ける。生まれ故郷「伊勢志摩」をこよなく愛し、「斎宮物語」「斎王の舞」、第六十二回伊勢神宮式年遷宮「白石獻上歌」、斎王まつりテーマ曲「永遠の祈り」等を制作し、伊勢神宮にて数回にわたり奉納演奏を行う。また日本文化遺産「斎王」の祈りのメソセージを、音楽や歌を通して多くの人々の心に届ける事が出来れば、この地で祈りの日々を送られた歴代の斎王さまも、この地に眠る斎王さまも、さっとお喜びになられるのではないか。そんな願いを込めて。

（CD発売日など詳しい情報は、長岡成貢ホームページ www.hinemikoco.jp で）

世界から見た日本の祈り

三浦 知子

斎王まつり実行委員会へ入会させて頂くことになりました。

間宮 辰典

実行委員会 新メンバー挨拶

二〇一七年斎王まつり実行委員会で、そもそも斎王まつりとは、その人生を神に仕え捧げた斎王さまを初めて多くの方々への鎮魂の思いから始まつたという説明があります。三十五年前そのように深い思いを抱いた地元の人たちが一丸となつて行動し続けたからこそ、今日の斎王まつりがあることを知り、深い感銘を受けました。

私は十歳からアメリカで育ち不思議なご縁で二〇一〇年に伊勢、そして明和町へと導かれて参りました。

それは四季折々の豊かな色、香、音に恵まれた島国。

それ故によく観察し、大自然とともに生き、山、大地、川、海の恵みに感謝を捧げ、祈りが日常の中にさりげなく存在する、そんな文化が育まれてきた国。

食前の「いただきます」。

私たちが口にする食べ物はすべて命あってのもの。

その命を「いただきます」と意宣（いの）り、ありがたく頂戴する。

「お蔭さま」。

目に見えるものは氷山の一角にしかすぎず、ほとんどが見えない領域でこの世は成り立っています。



この度、斎王まつり実行委員会へ入会させて頂くことになりました間宮辰典と申します。

今年で斎王まつりは、第三十五回目と大変歴史あるお祭りでお手伝いをさせて頂くのがいささか緊張しております。

私はより頑張り、皆様と楽しみながらボランティアをしたいと思いますので、どうぞ宜しくお願い致します。

参考したきっかけは、仕事やプライベートでもお世話になつてている実行委員会の方に誘つて頂いた事や、父もまた斎王まつりの実行委員だったからです。

また私が今年から地元へ帰つてきました。あり、もっと地元の事を知りたいなど感じたからです。

歴史ある斎王まつりですが、実際恥ずかしながら私自身は一度も行つたことがないのでわかりません。

インターネットで調べてみるとかなり大規模なお祭りでビックリしました。

さらにビックリした事が、この規模のお祭りにも関わらず実行委員会がボランティアで行つていているところが凄いと思いました。

斎王の事や明和町の事を少しでも知り身に立っています。

私は日本の文化が大好きですし、とても誇りに思っています。

斎王さまはどのような思いで都から斎宮へと赴き、禊、祈りを捧げてきたのか。この地でご縁を頂いたものとして、微力なりにビックリした事が、この規模のお祭りにも関わらず実行委員会がボランティアで行つていているところが凄いと思いました。

がらも約六六〇年間続いた斎王さまの祈りを次世代へと繋いでいくお手伝いができるば大変幸いです。



図書紹介

私達の「斎宮」について
より多くのことを知つていただくために
一地元で読める斎宮関係図書のご紹介

凡例
 ○ふるさと会館（図書館）で貸出可
 ☆いつきのみや歴史体験館・博物館ミュージアムショップで販売
 ◇斎宮歴史博物館図書ホールで閲覧可

「斎宮」の入門書として	谷口布有緒文『里中満智子画「斎王ロマン 都わすれの詩』明和町○☆
「斎宮」を知りたい方に	中野イツ著『斎宮物語』明和町○☆
郷土の歴史として	山川修司著『語り部の竹の斎王語り』近代文芸社○☆◇
「斎宮」を歩いてみたい方に	榎村寛之著『伊勢斎宮と斎王』塙書房☆
「斎宮」を歩いてみたい方に	奥井宏忠著『別れの御櫛—斎の宮と斎宮寮』光書房○◇
「斎王」行の旅した「群行」の道を歩いてみたい方に	明和町教育委員会編『郷土史に見る斎王』○◇
「斎王」を小説で読んでみたい方に	三重の文化財と自然を守る会編『伊勢斎王宮の歴史と保存』○◇
「斎王」についてみたい方に	田畠美穂著『斎王のみち—伊勢斎宮の文化史—』中日新聞本社○◇
「斎宮」や「斎王」について	内田康夫著『斎王の葬列』角川書店○◇
考へてみたい方に	池田美由喜著『鷺草—大津皇子とその姉と—』新風舎◇
「斎王」について	郡俊子著『倭姫宮の御巡行』勢陽文芸○◇
考へてみたい方に	村井康彦監修『斎王の道』向陽書房○☆◇
「斎宮」や「斎王」について	『伊勢斎王の恋』近代文芸社○◇
考へてみたい方に	『哀しみの伊勢大来斎王』近代文芸社○◇
「斎宮」や「斎王」について	『斎宮箇記』砂子屋書房○◇
考へてみたい方に	所京子著『斎王和歌文学の史的研究』国書刊行会◇
「斎宮」や「斎王」について	『続斎宮志』大和書房○◇
考へてみたい方に	『斎宮の歴史と文学』国書刊行会◇
「斎宮」や「斎王」について	『律令天皇制祭の研究』国書刊行会◇
考へてみたい方に	『斎宮和歌の解釈と鑑賞』紫明の会☆
「斎宮」や「斎王」について	『中川ただもと著「斎宮和歌の解釈と鑑賞」』砂子屋書房○◇
考へてみたい方に	『服藤早苗著「歴史のなかの皇女たち」』小学館☆



準備作業



第34回（28年度）斎王まつり実行委員会活動報告

（敬称略）

1月 7日(木) 事務所開き	6月 12日(日) 片付け・反省・打上
14日(木) 日本遺産PV撮影 衣裳準備 会計監査	24日(金) 第1回日本遺産活用推進協議会会議
16日(土) 日本遺産PV撮影(斎王役 前田 女官役 八木・中保)	7月 5日(木) 斎王まつり会議 土井代表出席(伊勢市役所)
19日(火) 第3回梅まつり会議	7日(木) 役員会(反省会)
23日(土) 役員会	15日(金) フォトコンテスト応募締め切り
25日(月) 着付け会議	19日(火) のぼり修理
29日(金) 総会	22日(金) 県依頼「Woemen In Innovation Summit」オブンガ出演について 電通打合せ 事務局対応
2月 10日(水) 出演者募集締切	26日(火) のぼり修理
12日(金) 役員会(出演者書類選考)	27日(水) フォトコンテスト1次審査
15日(月) 着付班 衣裳整理	28日(木) 役員会(フォトコンテスト入選・入賞作品選考)応募者61名応募作品114点
16日(火) 総務・財務班会議	8月 25日(木) 第2回日本遺産活用推進協議会会議
17日(水) 第4回梅まつり会議	31日(水) 第3回斎王まつりフォトコンテスト入賞・入選写真展 準備
25日(木) 実施班会議	9月 1日(木) 第3回斎王まつりフォトコンテスト入賞・入選写真展 (斎宮歴史博物館にて9月15日まで)
28日(日) 午前:着付け教室	4日(日) 第4回斎王まつりフォトコンテスト表彰式
午後:子供説明会(子ども斎王選抜 中央公民館)	8日(木) 役員会(臨時総会について)
3月 6日(日) 「梅まつり」(斎宮歴史博物館)(斎王役 前田 業平役 八木)	15日(木) フォト写真撤収
15日(火) 役員会(選考会について)	16日(金) 第3回斎王まつりフォトコンテスト入賞・入選写真展・斎王まつりの思い出展 準備
17日(木) 衣裳出し	17日(土) いつきのみや観月会(斎王役 八木 女官役 丸山)
20日(日) 斎王役選考会(いつきのみや歴史体験館)	第3回斎王まつりフォトコンテスト入賞・入選写真展・斎王まつりの思い出展(さいくう平安の杜 西脇殿にて10月2日迄)
21日(月) 日本遺産PV撮影 (斎王役 前田 女官役 八木・中保)	21日(水) 役員会(伊勢まつりについて)
22日(火) 衣裳片付け	23日(金) 県依頼「Woemen In Innovation Summit」オブンガ出演(斎王役 八木 女官役 島谷・中保)
23日(水) 第4回梅まつり会議	25日(日) 事務所移転作業
24日(木) Jサミット打ち合わせ(事務局対応)	30日(金) 臨時総会
25日(金) 本部会議	10月 9日(日) 伊勢まつり 斎王群行
4月 8日(金) 本部会議 リーフレット校正会議	17日(月) 衣裳片付け
14日(木) Jサミット打ち合わせ(事務局対応)	18日(火) 神宮奉納 長岡成貢氏と打ち合わせ
18日(月) 斎王市会議	26日(水) FM三重 「あつえりかのみんなのラジオ」収録 事務局対応
21日(木) 本部・実施班会議	27日(木) 役員会
22日(金) 三重テレビ「とってもワクドキ」(斎王役 八木 出演)	11月 7日(月) 衣裳準備(古道まつり)
自治長会代表会議(代表出席)	10日(木) 役員会
着付班 衣裳準備と整理	13日(日) 古道まつり斎王群行
25日(月) Jサミット お出迎え(県依頼)(斎王役 前田)	18日(金) 衣裳片付け(古道まつり)準備(伊勢神宮奉納)
26日(火) 全体会議	20日(日) 斎王まつりテーマ曲
5月 4日(水) 竹切りだし作業	伊勢神宮奉納(長岡成貢氏主催・斎王役 八木 女官役 島谷・中保)
6日(金) リーフレット回覧(明和町全戸配布)	22日(火) 第1回 梅まつり会議
8日(日) 作業(竹運搬 のぼり立て準備 看板出し ステージ製作準備)	26日(土) ざいしょ市 着付け体験 出演者募集広報活動
10日(火) 着付班 衣裳準備と整理	12月 1日(木) 第3回斎王まつり出演者 募集開始
12日(木) 着付班 衣裳準備と整理	2日(金) 衣裳片付け(ざいしょ市)
15日(日) 出演者説明会・リハーサル・ステージ製作・大道具製作	8日(木) 役員会
16日(月) 知事表敬訪問	12月 2日(月) 斎王まつり思い出フォト展(さいくう平安の杜 西脇殿にて)
17日(火) アトラクション会議	13日(火) 第2回梅まつり会議
22日(日) 午前:のぼり立て	16日(金) 本部・広報班ボスター校正会議
午後:子ども出演者説明会リハーサル・ステージ組み立て	20日(火) 本部・広報班ボスター校正会議
27日(金) 最終全体会議	22日(木) 事務所仕事納め
29日(日) 最終ステージ製作	
1日(水) 実施班会議 衣裳出し 斎王市テント立て	
4日(土) 前夜祭	
5日(日) 斎王まつり	
9日(木) 衣裳片付け	

第35回(平成29年度)斎王まつり実行委員会組織体制

(敬称略・順不同) ○班長 ○副班長

本部	代 表 土井 祐治	名譽会長(町長) 中井幸充			
	副代表 森田 均	顧問 木戸口眞澄	西場信行	浜井初男	明石典男
	企 画 森下 清	長井雅美	辻 丈昭	東谷泰明	山川充造
	企 画 森 茉津子	事務局 山中いづみ			
会計監事	朝倉 惟夫 久世 晃	相談役 辻 孝雄 渡邊幸宏	森島啓之 森下 清	東谷泰明 田中 貢	橋本久雄 新田一子
		任務分担の内容			
総務班	総務の実施 協賛金の計画 グッズ販売・スタンプアリ-等 斎王市の実施 のぼり・看板計画実施 出発式・禊会場の片付け	○辻 正 ○三浦邦昭 ○竹内和持 中川裕正 森島啓之 奥山幸洋 野田節雄 鈴木健司	竹内克巳 大西後次郎 田中真司 橋本久雄 橋口文隆 小林順一 田端正俊		
着付会場班	着付会場内の管理 出演者の移動 記念写真	○乾 秀治 ○北川和樹 江 京子	石田豊喜	澤 恒一	中瀬正実 東谷泰明
着付班	着付け準備と後片付け	○西宮幸代 ○田中政子 ○安井澄代 八田明美 新谷千恵子 森 洋子 河村三枝子 直井佳代	衣斐喜代美 菊矢照子 北山良子 森下昌子 中川啓子 加藤さわみ	夏井ちはる 西川美代子 寺西照美	
まつり会場班	前夜祭の実施 トラブルの実施 社頭の儀の実施	○笛川 浩 ○中西修一 伊串金市 小林邦久 和佐田照夫	○北山房夫 佐々木久夫 間宮一彦 和田薰士 西道涼	石田謙生 永島せい子 長谷川新	
群行班	群行の実施 出発式の実施 禊の儀の実施 社頭の儀の実施	○岩佐康則 ○早川潤一 辻 满寿美 岩本温行 潮田拓也 中谷優太	○東谷泰介 乾 健郎 中井啓悟 沢岡潤 浜口浩和	市野秀世 中島 宏 伊藤佳史 森川高広 石田真也	秋山修一 下村幸一 長谷川新 北岡純
舞台設営班	舞台の設営及び片付け	○関岡武夫 ○野上恒治 ○西岡信行			
広報班	ボスター・パンフレット原案作成 広報・宣伝事業計画	○山内 理 三浦知子			

*作業は実行委員 全員

群行衣裳



長奉送使【ちょうぶそうし】



監送使ともい。斎王一行を伊勢まで送り届ける群行の最高責任者。沿道における警察権が与えられており、任を終えると直ちに帰京しました。

檢非違使【けびいし】

平安時代から室町時代にかけて京中の警察を担当した職。元来、平安京の治安維持は京職や衛府の任であったが、特定の官人に京中の警察を担当させることがあり、それが檢非違使となり、やがて衛府や京職、彈正台などの権限を吸収し、王朝國家有数の警察機関となつたのである。

看督長【かどのおさ】

檢非違使の下級職員で、身分は火長。弘仁式制では左右それぞれにつき二人と定めら

斎王【さいおう】
天皇の即位ごとに、未婚の内親王（天皇の娘）あるいは女王（天皇の兄弟の娘など）の中から占いで選ばれ、天皇の議位や崩御、あるいは肉親の不幸などにより解任され、都に帰る決まりになつていきました。伊勢神宮の祭りには、六月・十二月の月次祭と九月の神嘗祭に関わるのみで、ふだんは斎宮の中で都と同様の生活を送つていたものと考えられています。

古代から中世にかけての文学作品に登場する斎王も多く、「源氏物語」「伊勢物語」など、多くの文献に残されています。

十一単【じゅうにとん】

1. 垂髪	2. 唐衣
3. 表着	4. 打衣
5. 衣(桂)	(枚数を重ねている)
6. 単	7. 長袴
9. 裳の小腰	10. 裳の引腰
11. 檜扇(朧扇)	12. 帖紙
13. 日陰の糸(玉かずら)	

※斎王が付けていたかどうかは定かではありません。



斎王【さいおう】

天皇の即位ごとに、未婚の内親王（天皇の娘）あるいは女王（天皇の兄弟の娘など）の中から占いで選ばれ、天皇の議位や崩御、あるいは肉親の不幸などにより解任され、都に帰る決まりになつていきました。伊勢神宮の祭りには、六月・十二月の月次祭と九月の神嘗祭に関わるのみで、ふだんは斎宮の中で都と同様の生活を送つていたものと考えられています。

古代から中世にかけての文学作品に登場する斎王も多く、「源氏物語」「伊勢物語」など、多くの文献に残されています。

十二単【じゅうにとん】

十二単とは近世になつてからの呼び名で、正しくは女房装束、または裳唐衣といいます。单衣の上に袴を重ね、打衣、表着の上にベストのような唐衣をはおり、腰には前部のないブリーツスカートのような裳をつけます。貴族の女性の晴の衣裳(正装)です。

十二単とは近世になつてからの呼び名で、正しくは女房装束、または裳唐衣といいます。单衣の上に袴を重ね、打衣、表着の上にベストのような唐衣をはおり、腰には前部のないブリーツスカートのような裳をつけます。貴族の女性の晴の衣裳(正装)です。

十三

十四

十五

十六

十七

十八

十九

二十

二十一

二十二

二十三

二十四

二十五

二十六

二十七

二十八

二十九

三十

三十一

三十二

三十三

三十四

三十五

三十六

三十七

三十八

三十九

四十

四十一

四十二

四十三

四十四

四十五

四十六

四十七

四十八

四十九

五十

五十一

五十二

五十三

五十四

五十五

五十六

五十七

五十八

五十九

六十

六十一

六十二

六十三

六十四

六十五

六十六

六十七

六十八

六十九

七十

七十一

七十二

七十三

七十四

七十五

七十六

七十七

七十八

七十九

八十

八十一

八十二

八十三

八十四

八十五

八十六

八十七

八十八

八十九

九十

九十一

九十二

九十三

九十四

九十五

九十六

九十七

九十八

九十九

一百

一百一

一百二

一百三

一百四

一百五

一百六

一百七

一百八

一百九

一百十

一百十一

一百十二

一百十三

一百十四

一百十五

一百十六

一百十七

一百十八

一百十九

一百二十

一百二十一

一百二十二

一百二十三

一百二十四

一百二十五

一百二十六

一百二十七

一百二十八

一百二十九

一百三十

一百三十一

一百三十二

一百三十三

一百三十四

一百三十五

一百三十六

一百三十七

一百三十八

一百三十九

一百四十

一百四十一

一百四十二

一百四十三

一百四十四

一百四十五

一百四十六

一百四十七

一百四十八

一百四十九

一百五十

一百五十一

一百五十二

斎王フォトコンテスト

斎王賞



「凛とした王女」

明和町

西岡育生



明和町教育長賞



斎宮歴史博物館長賞

明和町

苗村明利

特別賞



「微笑」 明和町 間宮 修

特別賞



「旅立ちの日」 明和町 太田 昇

特別賞



「遙拝」 伊勢市 山下 和宏

特別賞



「斎王とめい姫の昂揚」 松阪市 亀谷 清宣

特別賞



「雅」 大紀町 中西 宣夫

特別賞



「出発の宴」 伊勢市 瀧川 和夫

◆サイズ

カラーまたは白黒作品でサイズは四つ切のみ。

◆応募締め切り

平成29年7月14日(金)当日消印有効

(郵送中の事故、破損については責任を負いかねます。)

◆応募方法

応募票を作品裏面に貼付、郵送または斎王まつり事務所受付。

◆応募上の注意事項

応募作品には、応募者本人が撮影したもので一人2点以内(未発表の作品)に限ります。

(複数応募の場合には「コピーしてください」とあります。)

入賞、入選作品については、あらためてデーターをお借りすることができます。

パンフレットやポスター、ホームページなどへの使用権は主催者に帰属します。

応募作品のご返却はいたしません。

◆賞

入賞は、10賞(斎王賞ほか)、入選は10作品

◆応募先

HPにて発表いたします。

入賞者には直接通知いたします。(8月上旬頃)

◆応募・問い合わせ先

斎王まつり実行委員会「フォトコンテスト」係

〒515-0321

三重県多気郡明和町斎宮2811番地

斎王まつり実行委員会事務局

電話 0596-5210054



第32代斎王役
八木 美海

斎王役を務めて

斎王まつりの日にたくさんの方々から「はるか斎王様！」とお声がけいただき嬉しかったことを思い出します。

おまつり後も定例のイベントはもちろんのこと、三重県の女性フォーラム、伊勢神宮での奉納演奏、東京で行われたROOMSや私の写真を使用したラッピングバスの運行、「明和町から世界へ」をコンセプトとした日本酒プロジェクトinパリでの試飲会資料への利用など、いろんな方面から斎王、斎宮、明和町、三重県をPRする機会をいただけたこと、嬉しく思います。

私は「斎王はこうでなくては」という印象を守りながらも自分の色を出したいと思いながら活動してまいりました。

皆様の心に私の色が残りましたでしょうか？ 第32代斎王役で良かったと心から感じております。親切にしてくださり支えてくれた関係者の皆様、そして私の演じた斎王を愛してくださった皆様、心より感謝申し上げます。どうぞ斎王まつりをこれからも宜しくお願ひ致します。



子ども斎王
高岡 璃音

子ども斎王を務めて

私は、前夜祭に大勢のお客さんの前で、うまく開会宣言を言えるかどうか、不安でした。でも、いっぱい練習したから、うまく言えることができました。斎王まつり当日も周りの大からやさしい言葉で、勇気をもってやることができました。

とてもよい思い出になりました。楽し

かったです。



そうかれん
葱華葦復元模型(斎宮歴史博物館蔵)

永遠の祈り

昨年、待望の斎王まつりのテーマ曲「斎王永遠の祈り」を明和町明星出身で高名な作曲家・音楽プロデューサーである長岡成貢氏が作って下さいました。

第三五回のサブタイトルは、このテーマ曲にちなみ、「永遠の祈り」としました。

前夜祭のステージでは、特別ゲストとして同氏によりこの曲を初め多数演奏して頂きますので是非ご鑑賞下さい。

「斎王まつり」は、地元住民の皆様、後援の皆様、協賛企業の皆様のご支援・ご協力で開催されており、実行委員一同厚くお礼申しあげます。

実行委員会は「斎王まつり」「各種行事・イベント」を通じて、明和町の発展や斎宮跡の活性化に向けて気持ちを一つにして頑張っています。

この度、明和町歴史的風致維持向上計画により進めていました「いつきのみや地域交流センター」と「明和町観光案内所」を完成して頂きました。両施設を活用し実行委員も益々邁進していく所存です。

町の花「ノハナショウブ」が咲き誇る「祈る皇女斎王のみやこ 斎宮」で雅なひと時をお過ごしください。



日本遺産

主催／斎王まつり実行委員会

後援◎三重県、明和町、明和町教育委員会、明和町観光協会、明和町商工会、斎宮歴史博物館、(公財)国史跡斎宮跡保存協会、(一財)民族衣裳文化普及協会、中部運輸局三重運輸支局、近畿日本鉄道株式会社、NHK 津放送局、三重テレビ放送(株)、三重エフエム放送(株)、松阪ケーブルテレビ・ステーション(株)、皇學館大学
問い合わせ◎斎王まつり実行委員会事務局 TEL.0596-52-0054 FAX.0596-52-7274